

新必修科目「公共」(仮称)の構成原理

- 現代社会の課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する。
- 立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力を養う。
- 持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質・能力を養う。

新選択科目  
「倫理」(仮称)

自立して思索を行うとともに、他者と  
共に生きる主体を育む「倫理」

※ 思想的知識の習得に終始しないようにする。

新選択科目  
「政治・経済」  
(仮称)

公共的な事柄に自ら参画しようとする  
意欲や態度を育み、現代社会に生  
きる人間としての在り方生き方につ  
いての自覚を一層深める学習を充実

国家・社会の形成に、より積極的な役  
割を果たす主体を育む「政治・経済」

※ 制度・仕組みの知識の習得に終始しないようにする。

※ 現行の選択必修科目「現代社会」同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる新必修科目「公共」(仮称)を設置することとなっている。この科目は、「現代社会」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点が多く、その発展と捉えることのできることから、「現代社会」については科目を設置しないことも含め検討する。

# 高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）

＜科目構成の考え方＞

- ・新必修履修科目を前提に、自己の在り方生き方と他者などとの関わりを判断するための基準となる考え方を活用し、探究を深める科目構造をとる。
- ・思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換する。

## 現行公民科目

### 倫理

(1) 現代に生きる  
自己の課題

(2) 人間としての  
在り方生き方

- ア 人間としての自覚
- イ 国際社会に生きる日本人としての自覚

(3) 現代と倫理

- ア 現代に生きる人間としての倫理
- イ 現代の諸課題と倫理

一部移行

## 資質・能力

○ 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

## 新必修履修科目で育まれた資質・能力を活用し、思索を深める科目

○ 様々な課題を捉え、より深く考察するための概念や理論を、古今東西の幅広い知的蓄積を通して習得し思索する力

○ 課題解決のための論理的な思考力

拡充

(1) 「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

新必修履修科目  
「公共」（仮称）

## 新選択科目(案)

新選択科目  
「倫理」（仮称）

### (1) 自己の課題と人間としての在り方生き方

⇒ 自己の生き方を見つめ直し、自らの悩みや体験を振り返り、「公共（仮称）」で取り扱った社会との関わりを加えて、自己の課題を他者、集団、生命や自然などとの関わりを視点として捉え、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、哲学に関わる対話的手法等も用いて多面的・多角的に考察し、思索を深める。

（考察の対象）人間存在。愛、正義、幸福などの倫理的な価値

### (2) 現代の諸課題と倫理

探究

⇒ 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深め、自己の生き方の確立を図るために探究する。

（課題例）生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉、科学・技術・経済社会など

# 高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）Ⅱ

＜科目構成の考え方＞

・小・中学校社会で身に付けた社会的事象の見方や考え方を基盤に、新必修科目で習得した選択・判断の基準となる概念を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題やグローバル社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家・社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させる。

新必修科目  
「公共」（仮称）

(1) 「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

## 資質・能力

○グローバル社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度

## 新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、社会形成に向かう科目

○社会に見られる複雑な課題や問題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決策を構想する力

○構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力

## 現行公民科目

### 政治・経済

#### (1) 現代の政治

- ア 民主政治の基本原則と日本国憲法
- イ 現代の国際政治

#### (2) 現代の経済

- ア 現代経済の仕組みと特質
- イ 国民経済と国際経済

#### (3) 現代社会の諸課題

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

## 新選択科目(案)

新選択科目  
「政治・経済」（仮称）

### (1) 民主政治の基本原則と現代の経済

⇒民主政治や法、現代経済を貫いている基本原則を踏まえて、複雑な現代政治・経済の特質を捉えらるとともに、その解決策を探究する。  
(課題例) 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方、経済活動の在り方と福祉の向上の関連、少子高齢社会と社会保障…  
探究

### (2) グローバル化が進む国際政治・経済

⇒現代の国際政治・経済に関わる概念や理論、複雑な国際政治・経済の特質を捉えらるとともに、その解決策を探究する。  
(課題例) 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割、国際経済における日本の役割、地球環境と資源・エネルギー問題…  
探究

## 社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける検討事項

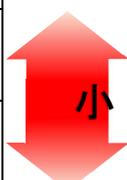
1. 社会・地理歴史・公民科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・社会・地理歴史・公民科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・特にii)に関わって、どのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むかについて
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた社会・地理歴史・公民科において育成すべき資質・能力及び内容の系統性（例えば、小・中学校における世界に関する学習の扱い、政治的教養を育むための教育の扱いなど）について
  - ・高等学校における新設科目等の具体的な内容について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

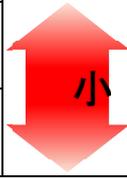
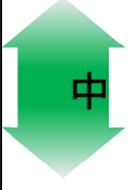
- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

**社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ**

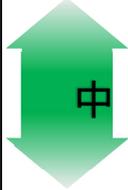
**① 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力**

・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味、特色や相互の関連を考察できる			

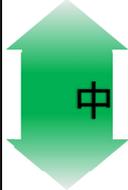
**② 社会に見られる課題や問題を把握し、その解決に向けて構想する力**

・ 社会に見られる複雑な課題や問題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、複数の立場や意見を踏まえて、解決について選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、解決に向けて自分たちにできることを選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握できる			

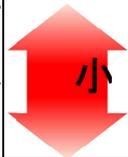
**③ 考察したこと、構想したことを説明する力**

・ 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる			
・ 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・ 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			

**④ 考察したこと、構想したことを基に議論する力**

・ 合意形成を視野に入れながら、社会的事象について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる			
・ 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・ 他者の意見につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる			

**\* 参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力**

・ 追究の過程や結果を評価し、不十分な点を修正・改善することができる			
・ 追究の結果を振り返り、学んだことの成果等を自覚できる			
・ 学習問題（課題）を把握し、追究の見通しを持つことができる			

# 「社会科等における見方や考え方や思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台案）

平成28年2月8日  
 教育課程部 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ  
 資料6

【高等学校地理歴史科、公民科】

## 思考力、判断力、表現力等

- 社会的現象の見方や考え方をを用いて、社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力
- 社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力
- 考察したことや構想したことを説明する力、議論する力

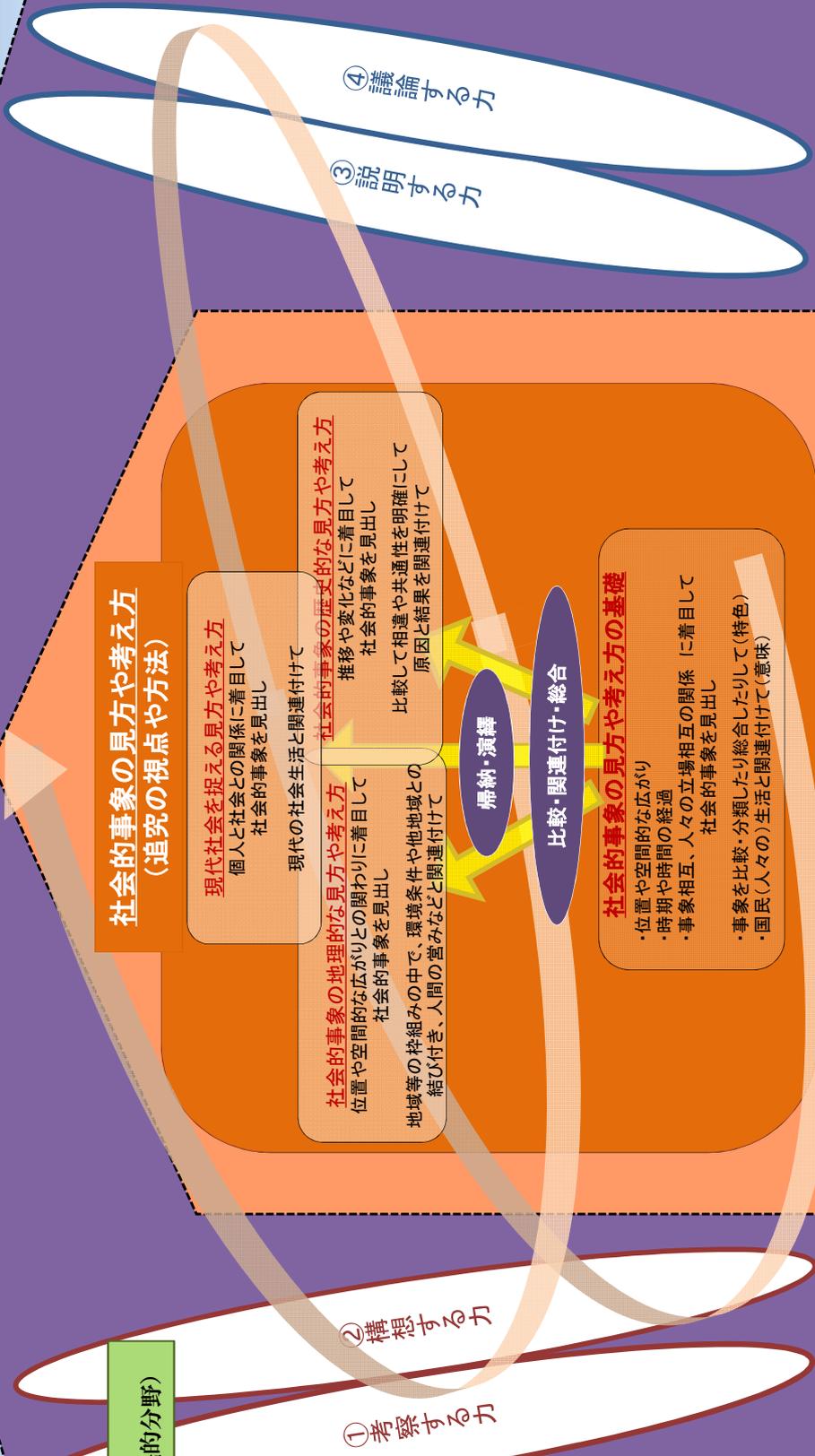
【中学校社会科】  
 (地理的、歴史的、公民的分野)

【小学校社会科】  
 (第3～6学年)

【小学校生活科】  
 (第1、2学年)

幼児教育

社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実



比較する、分類する、関連付ける  
 などの思考

身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。  
 生活に關係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。

伝える、相互交流する、振り返る  
 などの表現

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。  
 したり、思ったり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

思考力、表現力の基礎の育成

考えられる追究の視点（例）

- 位置や空間的広がりの視点  
地理的位置、地形、環境、  
気候、範囲、地域、構成、  
自然条件、社会的条件
- 時期や空間的経過の視点  
時代、起源、由来、背景、変化、  
発展、継承、維持、向上、計画
- 事象相互、立場相互の関係の視点  
工夫、努力、願い、協力、連携、  
つながり、関わり、協力、影響、  
対策・事業、役割、維持、

- 位置や分布に関わる視点  
緯度・経度、方位、距離  
領域、等質地域、地方的特殊性
- 場所に関わる視点  
地形、気候、植生、景観
- 人間と自然の相互依存関係に関わる視点  
生活様式、衣食住、自然条件
- 空間的相互依存作用に関わる視点  
機能地域、都市圏、社会条件
- 地域に関わる視点  
地域性、過疎・過密、先進・発展途上

- 年代の基本に関わる視点  
時期、年代、時代区分
- 諸事象の推移や変化に関わる視点  
変化、発展、時代の転換
- 諸事象の特色に関わる視点  
相連、共通性、時代の特色
- 事象相互の関連に関わる視点  
原因、背景、ねらい、  
結果、影響、意味、意義

- 現代社会を捉える視点  
対立と合意、効率と公正、  
影響、意義、働き、機能、  
多様性
- 社会に見られる課題や問題の解決策を構  
想する視点  
継承、創造、責任、役割、選択、  
配分、向上、整備、保全、保護、  
権利、義務、発展、維持、保障、推進、  
形成、国際協調、貢献、熱意、  
持続可能

追究の視点を生かした「問い」の例

- ・どのように広がっているのだろうか
- ・なぜこの場所に集まっているのだろうか
- ・なぜ地域によって気候が異なるのだろうか
- ・いつどんな理由で始まったのだろうか
- ・どのように変わってきたのだろうか
- ・なぜ変わらずに続いているのだろうか
- ・どのような工夫や努力があるのだろうか
- ・どのようなつながりがあるのだろうか
- ・なぜ○○と○○○の協力が必要なのだろうか

- ・それは、どこに位置するだろうか
- ・それは、どのように分布しているだろうか
- ・そこは、どのような場所だろうか
- ・ここでの生活は、まわりの自然環境から  
どのような影響を受けているだろうか
- ・ここでの生活は、まわりの自然環境に  
どのような影響を与えているだろうか
- ・そこは、それ以外の場所とどのような関  
係を持っているだろうか
- ・その地域はどのような特徴があり、それ  
はどのように変化してきたのだろうか

- ・いつ（どこで、誰によって）おこったか
- ・前の時代とどのように変わったか
- ・どのような時代だったか
- ・なぜおこった（何のために行われた）か
- ・どのような影響を及ぼしたか

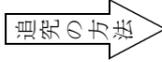
- ・どのような影響を受けているのか
- ・私たちに与えてきまじりとは何だろうか
- ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、  
どのような機能があるのか
- ・なぜ議会を通して政治を行うのか
- ・よりよい決定の仕方とはどのようなもの  
か
- ・社会保障とその財源の確保の問題をどの  
ように解決していったらよいか
- ・民主政治を推進するために何が必要か
- ・世界平和と人類の福祉の増大のためにど  
のようないかなることができ

社会科における思考力、判断力

◎社会的事象の見方や考え方の基礎

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や空間の経過
- ・事象相互、立場相互の関係  
に着目して社会的事象を見出し  
比較・分類したり総合し生活と関連付けて
- ・国民（人々の）生活と関連付けて

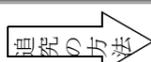
- ・社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力
- ・社会に見られる課題について、自分たちにできることを  
選択・判断する力



◎社会的事象の地理的な見方や考え方

- ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象  
を見出し
- ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、  
人間の営みなどと関連付けて

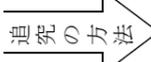
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に  
考察する力
- ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を  
踏まえて選択・判断する力



◎社会的事象の歴史的な見方や考え方

- ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
- ・比較して相連や共通性を明確にして
- ・原因と結果を関連付けて

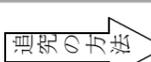
- ・時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力
- ・歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・  
判断する力



◎現代社会を捉える見方や考え方

- ・個人と社会との関係に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

- ・社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力
- ・現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏ま  
えて選択・判断する力



習得する知識、概念の例

- ・組立工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している
- ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まる
- ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異  
なる
- ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった。
- ・農作業は機械化により生産効率を向上させた
- ・伝統芸能はが技や道具が多くの人々に継承され今に至っている
- ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対処によって守られ  
ている
- ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている
- ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
- ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い  
理解し合うことが大切である

- ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること  
（具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日  
本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあります）
- ・特定の事象は、地球の表面において特定の場所に広がること  
（具体例：アマゾン川流域には、広大な熱帯雨林が広がっています）
- ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと  
（具体例：岡山県の南部は、なだらかか平野が広がり、一年を通して  
温暖な気候の地域です）
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること  
（具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にす  
るなどして利用してききました）
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと  
（具体例：東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に  
届ける近郊農業が古くから発展してきました）
- ・空間的な広がりは、固有の性格を持ち、変容すること  
（具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化  
に悩む地域が広がっています）

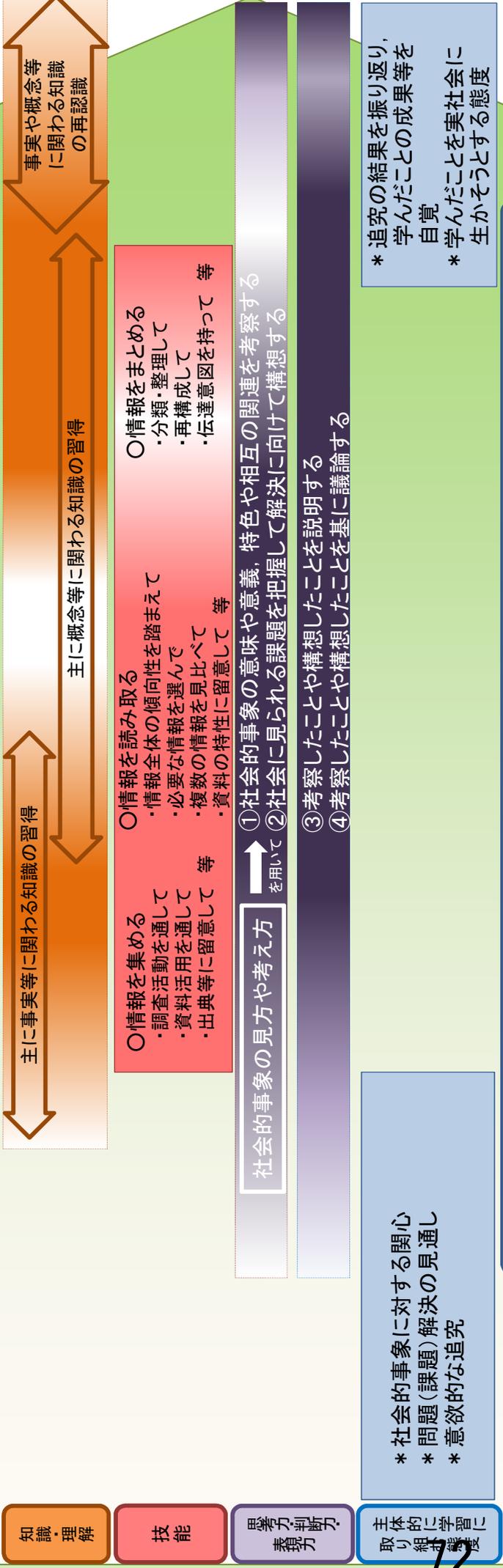
- ・今も世界に広まらぬいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明  
地域の都市を中心に広がった
- ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一的支配が弱まり、  
大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ
- ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が  
形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった
- ・東アジア各地の国家統一の動きをうけて、中央集権的な法政治体制  
をめざす律令国家の建設が進められた
- ・モンゴル襲来のあと御家人の経済的困窮と武家社会における専制  
的支配への不満が強まり、鎌倉幕府は倒壊に向かっていた

- ・私たちのものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によつて  
影響を受けている
- ・人間は社会的存在であり、よりよい社会生活を営んでいくために  
はさまざまな取り組みが必要である
- ・人間の生活の維持・向上を図ることに経済活動の意義がある
- ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手段  
きや内容についての「公正」が必要である
- ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源  
の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視  
点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
- ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済  
的、技術的な協力などが大切である

# 社会科における学習プロセスの例（たたき台案）

	課題把握	方向付け	情報収集	課題追究	課題解決	新たな課題
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習問題をつかむ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象を知る</li> <li>・気付きや疑問を出し合う</li> <li>・学習問題を設定する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題解決の見通しを持つ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を立てる</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予想や学習計画に基づいて調べる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や調査・見学、資料活用などを通して調べる</li> <li>・他の児童と情報を交換する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会的事象の意味、特色や相互の関連を考える                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多角的に考える、話し合う</li> </ul> </li> <li>● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちに行き届けることを選択・判断する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習問題を振り返ってまとめる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことをまとめる</li> <li>・考えたことをまとめる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習を振り返って考える                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べ方や学び方を振り返る</li> <li>・学習成果を（学校外の）他者に伝える</li> <li>・新たな問い（課題）を見出したり追究したりする</li> </ul> </li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習課題を設定する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識を醸成する</li> <li>・学習課題を設定する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決の見通しを持つ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・調査方法、追究方法を吟味する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予想や仮説の検証に向けて調べる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外での観察や調査などを通して調べる</li> <li>・様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>・他の生徒と情報を交換する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的に考察する</li> <li>・話し合う（討論等）</li> </ul> </li> <li>● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の立場や意見を踏まえて解決について選択・判断する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 考察したことや構想したことをまとめる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・結論について他の生徒と話し合う</li> <li>・学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習を振り返って考察する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る</li> <li>・学習成果を学校外の他者に伝える</li> <li>・新たな問い（課題）を見出したり追究したりする</li> </ul> </li> </ul>

主な学習過程の例



能力等の育成と主な評価場面

## 高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方 に関する特別チーム検討事項

1. 数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う数理探究（仮称）で育成すべき資質・能力について
  - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
2. 数理探究（仮称）の内容等について
  - ・ 数理探究（仮称）の目標、内容、探究的な活動の対象領域等
3. 数理探究（仮称）の指導方法及び指導に当たっての留意事項等について
4. 資質・能力の育成のために重視すべき数理探究（仮称）の評価の在り方について
5. 数理探究（仮称）の質を高め、普及させるための方策

# 数理探究(仮称)の基本的な考え方について(論点案)

平成28年1月21日  
山形県教育課程部会  
高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方に関する特別チーム  
資料4

「高等学校教育においては、スーパーサイエンスハイスクールにおける取組等を踏まえつつ、生徒の興味や進路に応じて、数学科の枠を越えた科学的なテーマに徹底的に向き合い考え抜く力を育成するため、大学入学者選抜の改革や「大学入学者希望者学力評価テスト(仮称)」に向けた動きも踏まえつつ、**数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目「数理探究(仮称)」**の設置を検討することが求められる。」  
(平成27年8月教育課程企画特別部会「論点整理」)

○教育課程企画特別部会「論点整理」  
「教育課程全体や各教科等の学びを通じて**「何がで  
きるようになるのか」という観点から、育成すべき資  
質・能力を整理する必要がある。その上で、整理され  
た資質・能力を育成するために「何を学ぶのか」とい  
う、必要な指導内容を検討し、その内容を「どのよ  
うに学ぶのか」という、子供たちの具体的な学びの姿  
を考えながら構成していく必要がある。」**

○平成27年8月高大接続システム改革会議「中  
間まとめ」  
「大学入学に向けた学びを、知識や解法パター  
ンの単なる暗記・適用などの受動的なものから、**学  
んだ知識や技能を統合しながら問題の発見・解決  
に取り組む、より能動的なものへと改革する。」**  
「(「数理探究(仮称)」)に対応する科目を実施す  
る。」

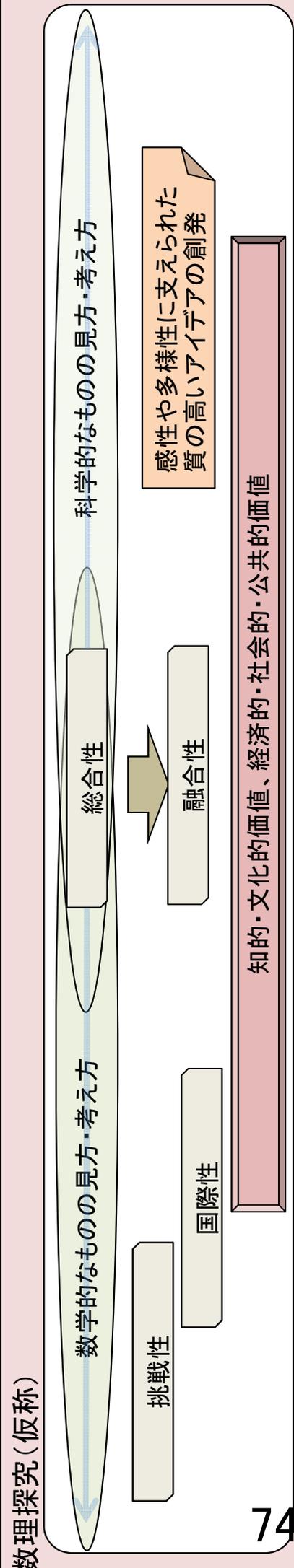
○平成26年5月科学技術・学術審議  
会学術分科会「学術研究の推進方  
策に関する総合的な審議につい  
て」中間報告  
「**学術研究による知の創出が基盤で  
あり、それが充実して初めて経済的  
価値ないし社会的・公共的価値等を  
含むイノベーションが可能となる。」**

①学術研究は「国力の源」といえる。現代の学術研究には、「**挑戦性**」「**総合性**」「**国際性**」が特に強く要請されている。  
②異分野融合は、かつての分野を合算したものではなく、**まったく新しい知の体系的構造に発展するものである**。これは、結果を見通したものではありません。大きく交流と連携、その拡大と新しい問題の発見から、さらなる交流と連携が生まれ、総合化と融合とがポトムアップ的に起こることを示している。

SSHの取組例  
約20か国から参加校を集め、科学  
交流(課題研究の口頭発表、ポス  
ターセッション、ワークショップ等)を  
実施。(学校法人立命館 立命館高等学校)

校内だけで完結するのではなく、大学や  
科学関連企業等と連携した「**発展型課  
題研究**」を行い、探究活動の質的向上を  
図る。(山形県立米沢興譲館高等学校)

探究型融合教科「グローバルサイエ  
ンス」を設置し、理科4分野を融合し  
た科目「**GS自然科学**」や「**GS課題研  
究**」等を実施。(京都府立桃山高等学校)



・科目の固有の視点として「**挑戦性**」「**総合性**」「**国際性**」「**融合性**」などが考えられるのではないか。  
・「**挑戦性**」「**総合性**」「**国際性**」「**融合性**」が感性や多様性に支えられた質の高いアイデアといった観点から**資質・能力を育てるための具体的な手立てとして**、どのようなカリキュラム構造(目標、内容構成、学習対象及びこれらにより育まれる資質能力)を考えるべきか。

## 算数・数学ワーキンググループにおける検討事項

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
  - ・統計的な内容等の充実について
  
2. アクティブ・ラーニング（※）の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

# 幼・小・中・高等学校を通じた算数・数学教育のイメージ(案)

## 【高等学校】

- ① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための**知識・技能**を身に付ける。
- ② **事象を数学を活用して論理的に考察する力や、思考の過程を振り返って本質を明らかにし、統合的・発展的に考察する力を養い、協働的に問題を解決できるようにする。**
- ③ 数学のよさを認識し、**数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、その過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。**
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりして生徒の主体的活動を充実する。



高等学校基礎学力テスト(仮称)

## 【中学校】

- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解し、**事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能**を身に付ける。
- ② **事象を数学を活用して論理的に考察する力や、数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力を養い、協働的に問題を解決できるようにする。**
- ③ 数学のよさを実感し、**数学を生活や学習に活用して考えたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。**
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりする活動や、帰納的に考えることなどから自ら決まりを見付ける活動、見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。



全国学力・学習状況調査

## 【小学校】

- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、**日常の事象を数理的に処理するための知識・技能**を身に付ける。
- ② 日常の事象を**数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、及び基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力を養い、協働的に問題を解決できるようにする。**
- ③ **数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用しようとしていたり、数学的に表現されたことについて改善しようとしていたりする態度を養う。**
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、**振り返ったりする学習活動を充実する。**
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を**図り、協働的に問題解決する学習活動を充実する。**



## 【幼稚園】

○(例)・生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。

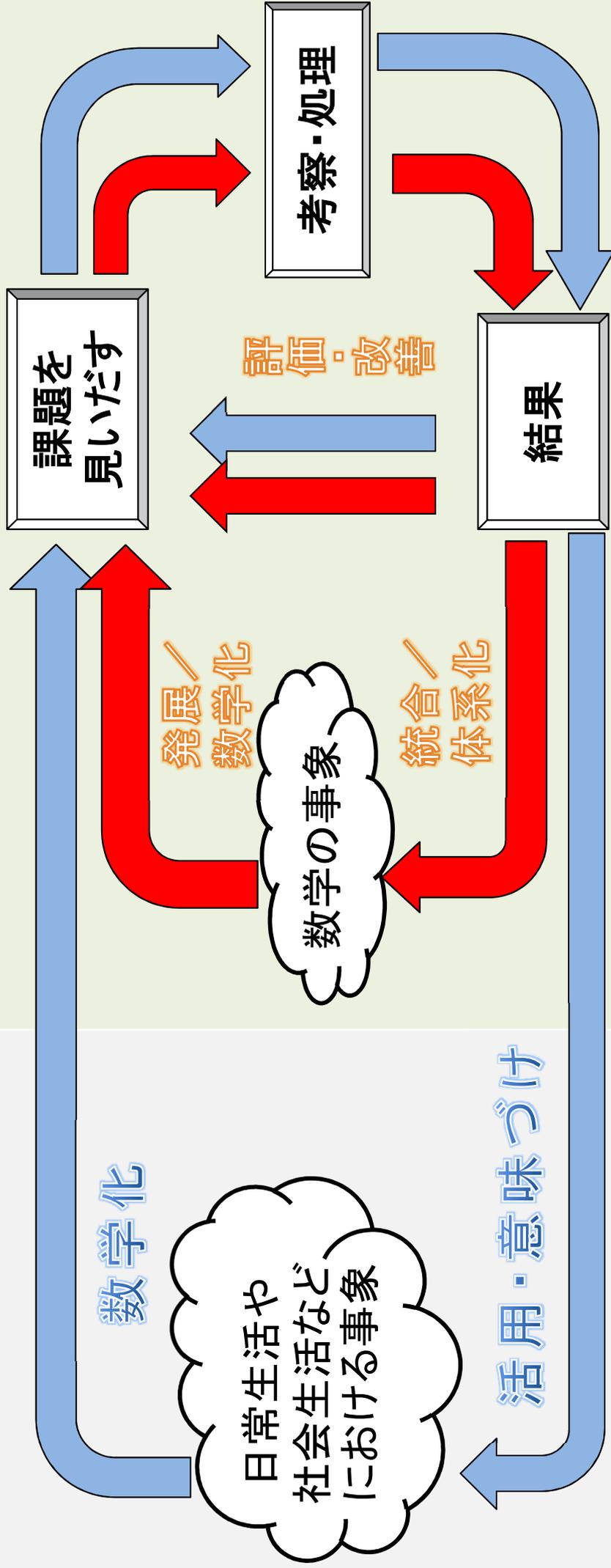
資質・能力の三つの柱に沿った、  
小・中・高を通じて算数・数学科において育成すべき資質・能力の整理(案)

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、 できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)	資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程の例
<p>数学 高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜数理探究(仮称)＞</li> <li>知識・技能の深化・統合化</li> <li>課題研究を遂行するための知識・技能</li> <li>数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能</li> <li>問題解決に必要な数学的なプロセスについての知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な課題解決能力(観察・実験デザイン力、構想力、実証的・論理的・分析的・統合的に考察する力、発表・表現力)</li> <li>新たな発見をしたり、創造したりする力</li> <li>事象を数学的に考察し表現する力</li> <li>既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識したり、統合的・発展的に考えたりする力</li> <li>数学的な表現を用いて協働的に問題解決する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度</li> <li>自発的、創造的に取り組む態度</li> <li>研究に対する倫理的な態度</li> <li>数学的な見方や考え方のよさ、数学の用語や記号のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性を認識し、事象の考察や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度</li> <li>問題の解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え抜こうとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然事象の把握</li> <li>情報収集と分類</li> <li>課題の設定</li> <li>仮説の設定</li> <li>検証計画の立案</li> <li>観察・実験の実施</li> <li>結果の処理、考察、推論</li> <li>表現・伝達</li> <li>疑問や問いの発生</li> <li>問題の設定</li> <li>問題の理解、解決の計画</li> <li>計画の実行、結果の検討</li> <li>振り返り</li> <li>新たな疑問や問い、推測などの発生</li> </ul>
<p>数学 中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能</li> <li>問題解決に必要な数学的なプロセスについての知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力</li> <li>既習の内容を基にして、数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考える力</li> <li>数学的な表現を用いて協働的に問題解決する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学的な見方や考え方のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度</li> <li>問題解決の過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度</li> <li>問題の解決などにおいて、粘り強く考え抜こうとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問や問いの発生</li> <li>問題の設定</li> <li>問題の理解、解決の計画</li> <li>計画の実行、結果の検討</li> <li>振り返り</li> <li>新たな疑問や問い、推測などの発生</li> </ul>
<p>算数 小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解</li> <li>日常の事象を数理的に処理するために必要な知識・技能</li> <li>問題解決に必要な数学的なプロセスについての知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力</li> <li>基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方などを見いだしたり、既習の内容と結びつけ、統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力</li> <li>数学的な表現を用いて協働的に問題解決する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学的な考え方や数理的な処理のよさに気付き、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度</li> <li>抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり、具体的に表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度</li> <li>数学的に表現したことについて批判的に検討しようとしたりする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の事象の数学化による問題設定</li> <li>解決の見通し、ねらいの明確化</li> <li>解決の実行</li> <li>解決したことの協働的検討</li> <li>解決過程や結果の振り返り(概念の深まり、統合・発展)</li> </ul>

# 算数・数学の問題発見・解決のプロセス

【現実の世界】

【算数・数学の世界】



日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、  
数学の概念を形成することができる

各場面で、言語活動を充実

疑問や問いの発生  
問題の設定

問題の理解  
解決の計画

計画の実行  
結果の検討

次の問題解決へ

振り返り・新たな問いの発生

※必ずしも一方通行の流れではない

算数・数学の内容を深める

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決することができる。

※これらの力も必ずしもこの位置のみに位置づけられてはいない

数学の事象について統合的・発展的に考え、数学の概念を形成することができる。

- A 実社会や実生活などの問題を数理的に捉えることについて
- 事象の数量等に着眼して数学的な課題を見いだす力
  - 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)

- B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて
- 数学的な課題の本質を見いだす力(洞察能力)
  - 数学的な課題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

- C 焦点化された問題を解決することについて
- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
  - 的確かつ能率的に処理する力
  - 論理的に推論をする力(帰納, 類推, 演繹)
  - 過程や結果を吟味し、評価・改善する力
  - 多面的に考え、粘り強く問題に取り組む力

- D 振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて
- 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
  - 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり、深めたりする力
  - 得られた結果を基に拡張・一般化する力
  - 統合的・発展的に考える力

- E 得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて
- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
  - 様々な事象に活用する力

思考

判断

表現

- F 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて
- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
  - 相手に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

## 理科ワーキンググループにおける検討事項

1. 理科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・理科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた理科において育成すべき資質・能力の系統性について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき理科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

# 理科教育のイメージ (20160205案)

## 【高等学校】

- ◀ **高度: explore science** 》 (Especially Science for Interested students: 世界をリードする人材として)
- ◎ 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
  - 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。(理数科, 数理探究(仮称))

## ◀ **応用: advanced science** 》 (Science for Interested students: 科学技術立国としての日本を支える人材として)

- ◎ 科学に関する課題に向き合い、科学的に探究する能力と態度を養う。専門的な知識と技能の深化を図り、論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて、科学的な探究能力(課題解決能力)の育成を図る。また、その際は日常生活や他教科(数学・情報・保健体育・地理など)との関連を図る。

## ◀ **基礎: basic science** 》 (Science for All students: 善良な市民として)

- ◎ 日常生活における様々な状況において、科学的な知識や技能を使ってその状況を理解し、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づき結論や意思決定を導き出すことができる力を養う。
- ① 自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
- ② 自然の事象を目的意識を持って観察・実験し、科学的に探究したり、科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。
- ③ 基本的な概念や原理・法則の体系的理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。
- 中学校で身に付けた資質・能力を活用して、科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また、その際は日常生活や他教科(数学・情報・保健体育・地理など)との関連を図る。

## 【中学校】

- ① 自然の事象にすんでかわり、科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。
- ② 自然事象の中に、問題を見いだして課題を設定し、仮説をたて、計画を立案し、目的意識をもって観察・実験し、得られた結果を分析・解釈する力を養う。
- ③ 基本的な概念や原理・法則の体系的理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。
- 小学校で身に付けた、比較、分類、関係付け、条件制御などの資質・能力をさらに高め、自然事象の把握、問題の設定、予想・仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現等の学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
- 例えば、1年: 自然の事象・事象に進んでかわり、その中から問題をみいだす。2年: 解決方法を立案して実行し、結果の妥当性を検討する。3年: 問題解決過程のすべての過程を振り返り、その妥当性を検討する。

## 【小学校】

- 【理科】
- ① 自然を大切に、生命を尊重する態度、科学的に探究する態度を養う。
  - ② 見通しをもった的確に観察、実験などを行い、問題解決の能力とその妥当性を検討する力を養う。
  - ③ 自然の事象・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
  - 観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を図る。また、日常生活や他教科との関連を図る。
  - 問題解決の能力、例えば、3年: 差異点や共通点に気づき問題を見いだす力、4年: 既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力、5年: 質的变化や量的変化、時間的変化に着目して解決の方法を発想する力、6年: 要因や規則性、関係を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。
  - 目的を設定し、計測して制御するという考え方の学習活動を充実する。

(小学校低学年)

例えば、【生活科】

- 自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、その不思議さに気付いたりすることができる。
- 身近な自然を観察したり、季節や地域の変化や季節によって生活の様子が変わることや成長していることに気づき、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりする。
- 身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもって成長していることに気づき、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

## 【幼稚園】

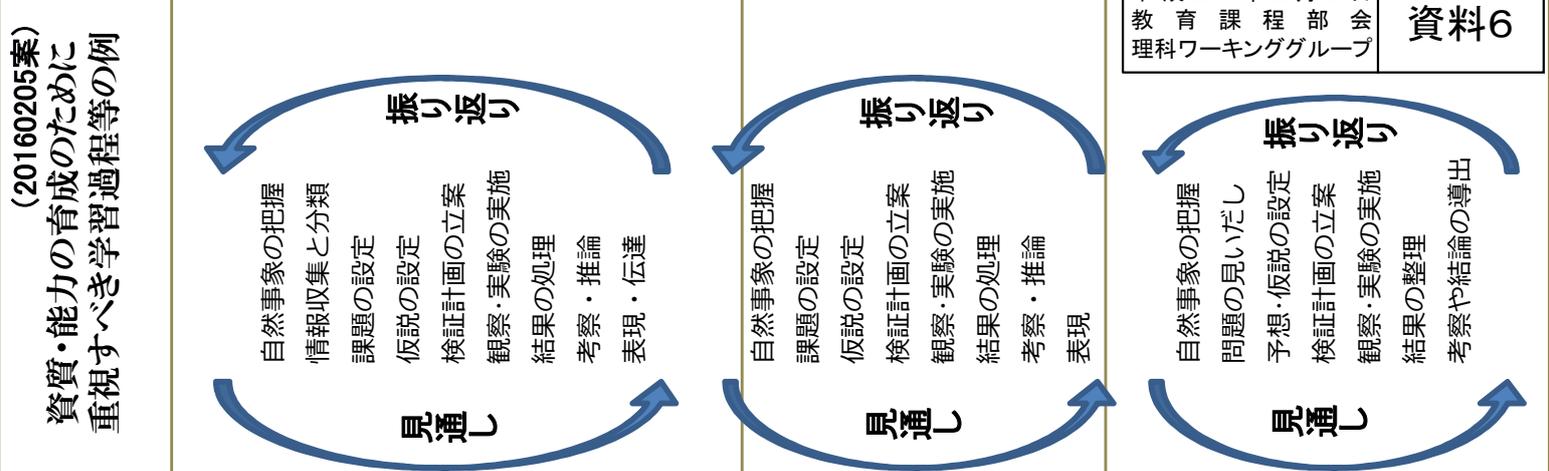
- (教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)
- 物との多様なかかわりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする。
  - 身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたり、楽しみながら工夫して使う。
  - 水や氷、日向や日陰など、同じものでも季節により変化するものがあるのを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。
  - 身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さ、生命の尊さに気づき、感動したり、いたわったり、大切にしたりする。

改善のための  
PDCA  
サイクル

改善のための  
PDCA  
サイクル

改善のための  
PDCA  
サイクル

<p><b>理科</b></p> <p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <p>&lt;選択科目：数理探究(仮称)&gt; ●知識・技能の深化・統合化 ●課題研究を遂行するための知識・技能</p> <p>&lt;選択科目：数理探究(仮称)を含めない&gt; ●知識・技能の深化 ●高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解</p> <p>&lt;必修科目&gt; ●高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ●科学的探究についての理解 ●探究のために必要な観察・実験等の技能</p>	<p><b>高等学校</b></p> <p>学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの) (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度</li> <li>●自発的、創造的に取り組む態度</li> <li>●科学研究に対する倫理的な態度</li> <li>●科学的に探究する態度</li> <li>●科学に対する倫理的な態度</li> <li>●自然の事物・現象に対する畏敬の念</li> <li>●果敢に挑戦する態度</li> <li>●日常生活との関連、科学の必要性や有用性の認識</li> <li>●科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度</li> <li>●中学校で身に付けた課題解決の力などを活用しようとする態度</li> </ul>	<p><b>中学校</b></p> <p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <p>&lt;選択科目：数理探究(仮称)&gt; ●知識・技能の深化・統合化 ●課題研究を遂行するための知識・技能</p> <p>&lt;選択科目：数理探究(仮称)を含めない&gt; ●知識・技能の深化 ●高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解</p> <p>&lt;必修科目&gt; ●高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ●科学的探究についての理解 ●探究のために必要な観察・実験等の技能</p>	<p><b>小学校</b></p> <p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <p>&lt;選択科目：数理探究(仮称)&gt; ●知識・技能の深化・統合化 ●課題研究を遂行するための知識・技能</p> <p>&lt;選択科目：数理探究(仮称)を含めない&gt; ●知識・技能の深化 ●高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解</p> <p>&lt;必修科目&gt; ●高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ●科学的探究についての理解 ●探究のために必要な観察・実験等の技能</p>
--	---	---	---



# 理科の各領域における特徴的な見方 (20160205 案)

- 1 科学の目的  
科学の目的は、自然現象を説明できる法則や理論を構築していくこと
- 2 理科の各領域における特徴的な見方を考える前提：法則や理論の構築という視点から整理することが必要

表 1 理科の各領域における特徴的な見方

見方	領域			
	エネルギー	粒子	生命	地球
	<p>自然の事物・現象を主として<u>量</u> <u>的・関係的</u>に捉える</p> <p>* 高等学校では、現象をより包括的・高次的に捉える</p>	<p>自然の事物・現象を主として<u>質</u> <u>的・実体的</u>に捉える</p> <p>* 中学校から実体はあるが見えない(不可視)レベルの原子, 分子レベルで現象を捉える * 高等学校では、現象をより包括的・高次的に捉える</p>	<p>生命に関する自然の事物・現象を主として<u>多様性と共通性の視点</u>で捉える</p> <p>* 「分子→細胞→個体→集団レベル」の階層性があり, 小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる</p>	<p>地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として<u>時間的・空間的な視点</u>で捉える</p> <p>* 「身のまわり→地球→宇宙レベル」の階層性があり, 小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる</p>
	<p>学校段階の違い (内容の階層性の広がり)</p> <p>小学校「見える (可視) レベル」 中学校「見える (可視) → 見えない (不可視) レベル」 高等学校「見える (可視) → 見えない (不可視) レベル」</p>	<p>学校段階の違い (内容の階層性の広がり)</p> <p>小学校「(物) レベル」 中学校「(物質) レベル」 高等学校「(物質) レベル」</p>	<p>学校段階の違い (内容の階層性の広がり)</p> <p>小学校「個体→集団レベル」 中学校「細胞→個体→集団レベル」 高等学校「分子→細胞→個体→集団レベル」</p>	<p>学校段階の違い (内容の階層性の広がり)</p> <p>小学校「身のまわり (見える) レベル」 中学校「身のまわり (見える) レベル → 地球 (地球周辺) レベル」 高等学校「身のまわり (見える) レベル → 地球 → 宇宙レベル」</p>

表2 理科の各領域における特徴的な見方の整理例

20160205

		領域		
		粒子	生命	地球
		工ネルギー		
見方	自然の事物・現象を主として量的・関係的に捉える	自然の事物・現象を主として質的・実体的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える
	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル」において、主として量的・関係的に捉える 例：豆電球の明るさについて、電池の数(量)や直列・並列つなぎの関係で捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：形が変わっても重さは変わらないことから実体として存在することを捉える	生命に関する自然の事物・現象を「個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：昆虫や植物の成長や体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：土地のつくりや変化について、侵食・運搬・堆積の関係を時間的・空間的な視点で捉える
小学校 【事象を分節化しない】	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル→見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的に捉える 例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞→個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル→見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的に捉える 例：電氣抵抗に関する現象について、物質のの違いから包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子→細胞→個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル→宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える
中学校 【事象を主に可逆的なもの(エネルギー、粒子)と主に不可逆的なもの(生命、地球)に分節化する】	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル→見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的に捉える 例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞→個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル→見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的に捉える 例：電氣抵抗に関する現象について、物質のの違いから包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子→細胞→個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル→宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える
高等学校 【事象をエネルギー、粒子、生命、地球に分節化する】	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル→見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的に捉える 例：電氣抵抗に関する現象について、物質のの違いから包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子→細胞→個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル→宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える
	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル→見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的に捉える 例：電氣抵抗に関する現象について、物質のの違いから包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的に捉える 例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子→細胞→個体→集団レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)レベル→宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える

理科における資質・能力の例

学習活動例(主体的な課題解決)  
見通しと振り返りの例



次の課題解決のプロセス

\*なお、課題解決の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、そのプロセスの一部のみを扱ってもよい。

## 芸術ワーキンググループにおける検討事項

1. 芸術系科目を通じて育成すべき資質・能力について
    - ・芸術系科目を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
    - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
      - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
      - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
      - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
    - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた芸術系科目において育成すべき資質・能力の系統性について
    - ・芸術系科目において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
  
  2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の指導等の改善充実の在り方について
  
  
  3. 資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の評価の在り方について
  
  
  4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について
- ※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）
- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
  - ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
  - iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

# 芸術科（書道）において育成すべき資質・能力の整理 （検討のたたき台）

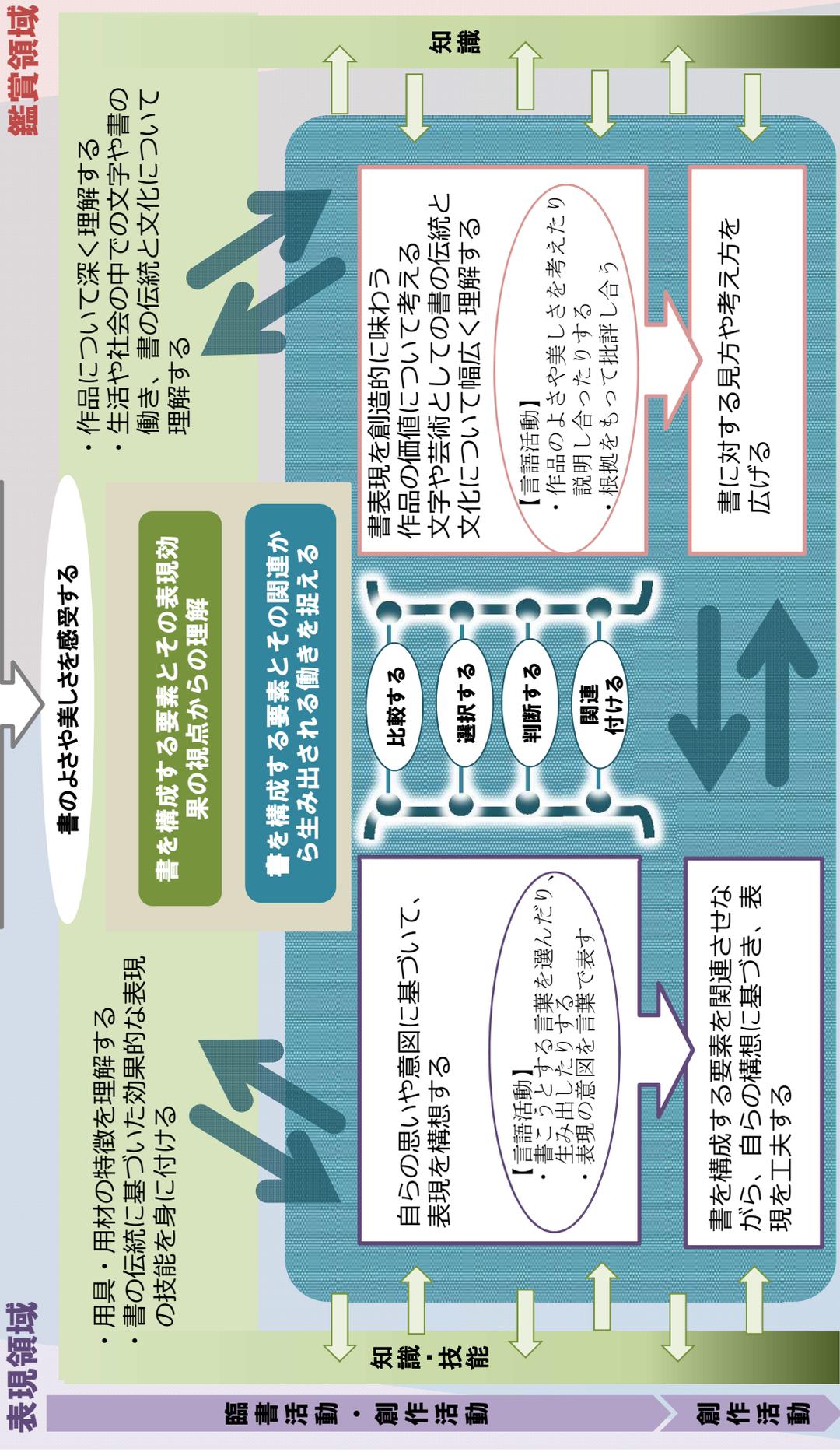
	<p><b>個別の知識や技能</b> (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力等</b> <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b> <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>書道 高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書を構成する要素とその表現効果の視点から、作品を深く理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすること など</li> <li>感性を働かせて、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために、用具・用材の特徴を理解し、書の伝統に基づいた効果的な書表現の技能を身に付けること など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書よさや美しさを感じ、書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉えるなどして、感性を働かせながら、自らの思いや意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫すること など</li> <li>書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉えるなどして、書表現を創造的に味わったり、作品の価値を考えるなどして、文字や芸術としての書の伝統と文化について幅広く理解し、書に対する見方や考え方を広げたりすること など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書への関心・意欲・態度</li> <li>感性</li> <li>文字や書的生活や社会の中での働きや効用を考え、主体的に関わる態度</li> <li>生涯にわたり書を愛好する心情</li> <li>書の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>情操 など</li> </ul>

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なもの

# 芸術科（書道）における学習のプロセス（イメージ案）

平成28年2月23日  
 教育課程部 会  
 芸術ワーキンググループ  
 （第5回）資料1ー2

## 書表現との出会い



豊かな情操、生活や社会における文字や書に豊かに関わる資質・能力の育成

書に対する感性

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

平成28年2月23日  
教育課程部  
芸術ワーキンググループ  
(第5回)資料2-1

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
小学校 図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色などの造形的な特徴や、材料や用具の特徴、作品のことなどについての、造形的な創造活動を通じた理解。</li> <li>・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせたり経験を生かしたりしながら、<u>形や色</u>などの造形的な特徴を捉えるとともに<u>自分のイメージ</u>をもつなどして、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら、<u>形や色</u>などの造形的な特徴を捉えるとともに<u>自分のイメージ</u>をもつなどして、表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりだす喜び</li> <li>・造形への関心・意欲・態度</li> <li>・感性</li> <li>・<u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>・情操</li> </ul> など

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p><b>個別の知識や技能</b> (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力等</b> <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b> <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>中学校 美術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情などの特徴について創造活動における造形的な視点として理解したり，美術作品，文化遺産などについて造形的な視点から作風などを理解したりすること。</li> <li>・感性や造形感覚を働かせ，形や色彩などの表し方のコツをつかむことや，意図や自己の捉えたイメージなどに応じて形や色彩，材料，用具の特性を生かした新たな表現方法の工夫すること，制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって表すなどの創造的な技能。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力を働かせ，造形的な特徴などからイメージを捉えるなどして，豊かに発想し，よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練ること。</li> <li>・感性や想像力を働かせ，造形的な特徴などからイメージを捉えるなどして，自然の中の造形や美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり，生活の中の美術の働きや美術文化を理解したりすること。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造活動の喜び</li> <li>・美術への関心・意欲・態度</li> <li>・感性</li> <li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の美術と主体的に関わる態度</li> <li>・生涯にわたり美術を愛好する心情</li> <li>・美術文化の継承と創造への関心</li> <li>・情操</li> </ul> <p>など</p>

下線部は、[共通事項]と関連する箇所

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p><b>個別の知識や技能</b> (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力等</b> <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b> <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>高等学校 芸術 (美術)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素の働きなどについて創造活動における造形的な視点として深く理解したり、美術作品、文化遺産などについて造形的な視点から表現の特質などを理解したりすること。</li> <li>・感性や造形感覚などを豊かに働かせ、創造的な美術の表現をするために、意図や自己の捉えたイメージなどに応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力を豊かに働かせ、造形的な特徴などからイメージを捉えるなどして、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ること。</li> <li>・感性や想像力を豊かに働かせ、造形的な特徴などからイメージを捉えるなどして、芸術としての美術や生活や社会に中の美術の働き、美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうこと。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術への関心・意欲・態度</li> <li>・感性</li> <li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の美術と主体的に関わる態度</li> <li>・生涯にわたり美術を愛好する心情</li> <li>・美術文化を尊重する態度</li> <li>・情操</li> </ul> <p>など</p>

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なとなるもの

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>高等学校 芸術 (工芸)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素の働きなどについて創造活動における造形的な視点として深く理解したり、工芸作品、伝統工芸などについて造形的な視点から工芸の特質などを理解したりすること。</li> <li>・感性や造形感覚などを豊かに働かせ、創造的な工芸の表現をするために、意図や自己の捉えたイメージなどに応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、手順や技法などを吟味し創意工夫したりするなどの創造的な技能。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力を豊かに働かせ、造形的な特徴な<u>どからイメージを捉える</u>などとして、心豊かな発想をし、用と美、よさや美しさなどを考え制作の構想を練ること。</li> <li>・感性や想像力を豊かに働かせ、造形的な特徴な<u>どからイメージを捉える</u>などとして、芸術としての工芸や生活や社会の中の工芸の働き、工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうこと。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸への関心・意欲・態度</li> <li>・感性</li> <li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の工芸と主体的にかかわる態度</li> <li>・生涯にわたり工芸を愛好する心情</li> <li>・工芸の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>・情操</li> </ul> <p>など</p>

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なとなるもの

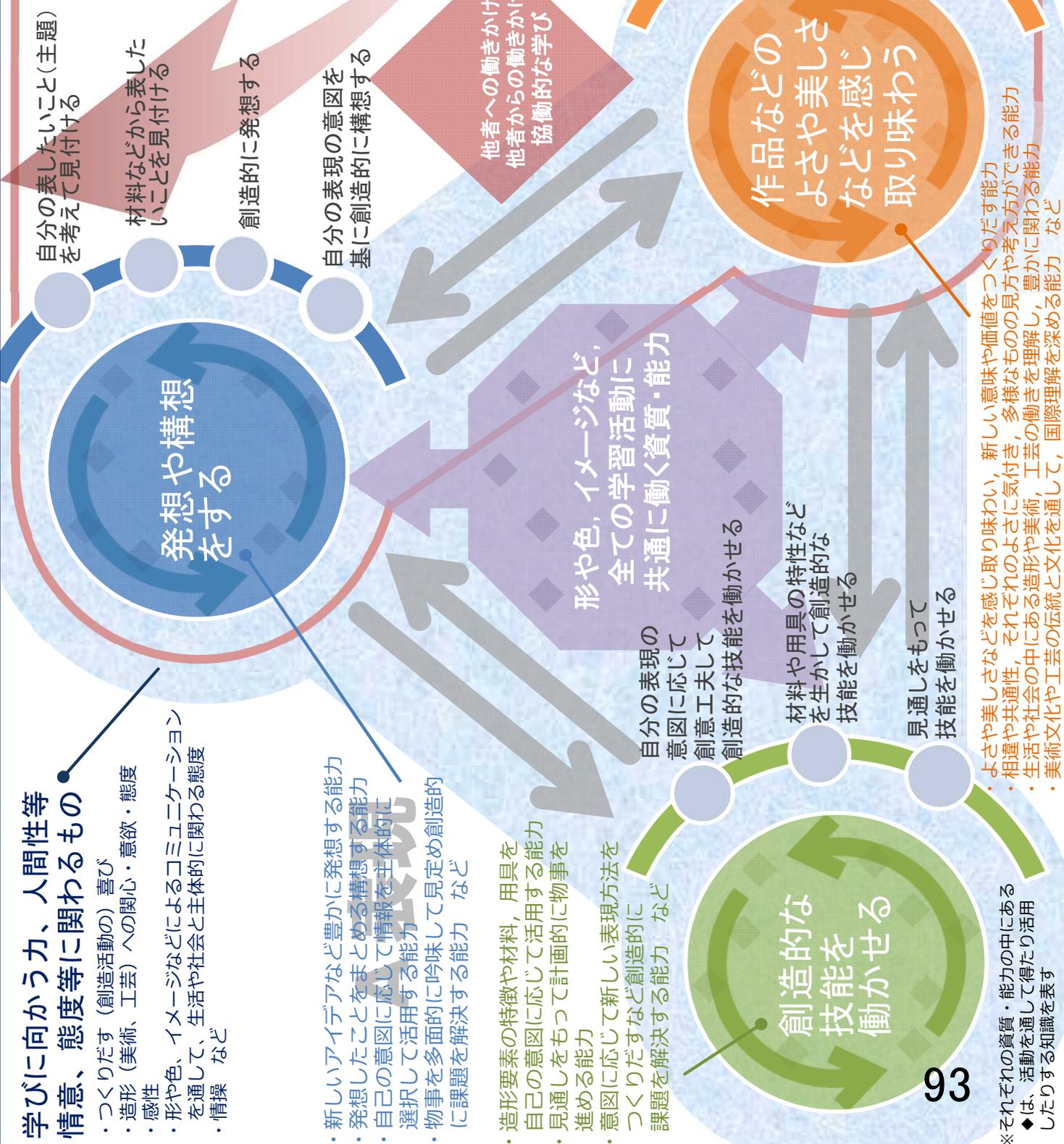
# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における学習のプロセス（イメージ案）

## 学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの

- ・つくりだす（創造活動の）喜び
- ・造形（美術、工芸）への関心・意欲・態度
- ・感性
- ・形や色、イメージなどによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度
- ・情操 など

- ・新しいアイデアなど豊かに発想する能力
- ・発想したことをまとめる構想する能力
- ・自己の意図に応じて情報を主体的に選択して活用する能力
- ・物事を多面的に吟味して見定め創造的に課題を解決する能力 など

- ・造形要素の特徴や材料、用具を自己の意図に応じて活用する能力
- ・見通しをもって計画的に物事を進める能力
- ・意図に応じて新しい表現方法をつくりだすなど創造的に課題を解決する能力 など



形や色、材料などを操作したり  
 用いたりして思考・判断する

言葉を用いて思考・判断する

**言語表現  
 言語活動**

- アイデアスケッチなどに感じたことや考えなどを整理する
- 話したり話し合ったりする
- 説明し合ったり価値意識をもって批評し合ったりする
- 討論や根拠をもって批評し合う

自分の見方や感じ方を大切にして、作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わう

生活や社会の中の造形や美術の働きについて感じ取ったり理解を深めたりする

美術文化や工芸の伝統と文化の理解を深める

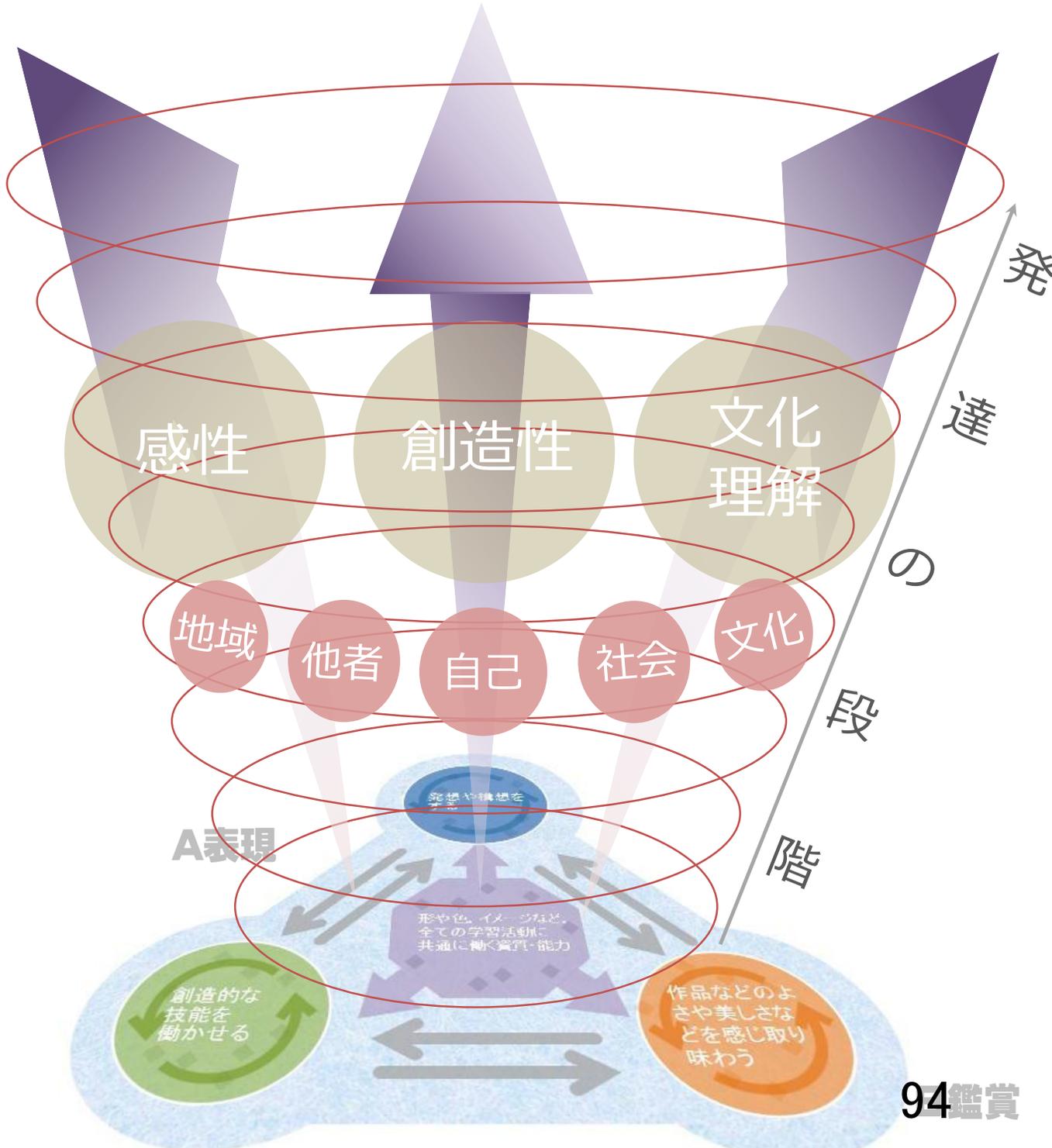
**作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わう**

- ・よさや美しさなどを感じ取り味わい、新しい意味や価値をつくりだす能力
- ・相違や共通性、それぞれよさに気づき、多様なものの見方や考え方ができる能力
- ・生活や社会の中にある造形や美術、工芸の働きを理解し、豊かに関わる能力
- ・美術文化や工芸の伝統と文化を通して、国際理解を深める能力 など

※それぞれの資質・能力の中にある  
 ◆は、活動を通して得たり活用したりする知識を表す

形や色、イメージなどの視点を持ち、生活や社会と豊かに関わる資質・能力

# 豊かな情操



# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p><b>個別の知識や技能</b> (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力等</b> <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b> <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>小学校 音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きを理解したり、音楽的な特徴や構造と曲想との関わりについて理解したりすること</u> など</li> <li>・ <u>聴唱や聴奏、視唱や視奏、声や音を合わせる</u> など、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたりするために必要な技能や、自分の思いや意図を音楽で表現するために必要な技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを<u>感じ取り</u>ながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力</u> など</li> <li>・ <u>音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどの<u>感じ取り</u>ながら、知識を得たり活用したりして、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え味わう、音楽のよさなどを見いだす能力</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働して音楽活動する喜び</li> <li>・ 音楽への関心・意欲・態度</li> <li>・ 感性</li> <li>・ 音楽を愛好する心情</li> <li>・ 我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にしようとする態度</li> <li>・ 生活の中の様々な音や音楽への関心</li> <li>・ 音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度</li> <li>・ 情操</li> </ul>

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p><b>個別の知識や技能</b> (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力等</b> <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b> <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>中学校 音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>音楽を形づくっている要素及びそれらに関する用語や記号などについて、楽曲における働きと関わらせて理解したり、楽曲の背景や楽曲の構造と、曲想との関わり及びその多様性について理解したりすること</u> など</li> <li>・ <u>自分の思いや意図を生かして音楽表現をするために必要な技能</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知識や技能を得たり活用して、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力</u> など</li> <li>・ <u>音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知識を得たり活用して、音楽を自分なりに解釈したり自分にとっての価値を考えたりしたことを基に、根拠をもって批評するなどして、音楽文化に対する理解を深め、よさや美しさを味わう、音楽の意味や価値の創造に関する能力</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働して音楽活動する喜び</li> <li>・ 音楽への関心・意欲・態度</li> <li>・ 感性</li> <li>・ 音楽を愛好する心情</li> <li>・ 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度</li> <li>・ 音環境への関心</li> <li>・ 音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度</li> <li>・ 情操</li> </ul> <p>など</p>

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p><b>個別の知識や技能</b> (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力等</b> <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等</small> (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p><b>学びに向かう力、人間性等</b> <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>高等学校 芸術 科（音楽）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、<u>音楽表現上の働き</u>と関わらせて理解したり、楽曲の文化的・歴史的背景や楽曲の構造と、曲想との関わり及びその多様性について理解したりすること など</li> <li>・自分の表現意図を生かして音楽表現をするために必要な技能 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きの感受しながら、知識や技能を得たり活用して、音楽表現を創意工夫し、楽曲の背景などと関わらせながら表現意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力 など</li> <li>・感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きの感受しながら、知識や技能を得たり活用して、音楽を自分なりに解釈したり自分や社会に与える価値を考えたことに基づき、根拠をもつて批評するなどして、芸術としての音楽や音楽文化に対する理解を深め、よさや美しさを味わう、音楽の意匠や価値の創造に関する能力 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働して音楽表現を創造したり鑑賞したりする態度</li> <li>・音楽への関心・意欲・態度</li> <li>・感性</li> <li>・生涯にわたり音楽を愛好する心情</li> <li>・我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する態度</li> <li>・よりよい音環境を求める態度</li> <li>・音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度</li> <li>・情操 など</li> </ul>

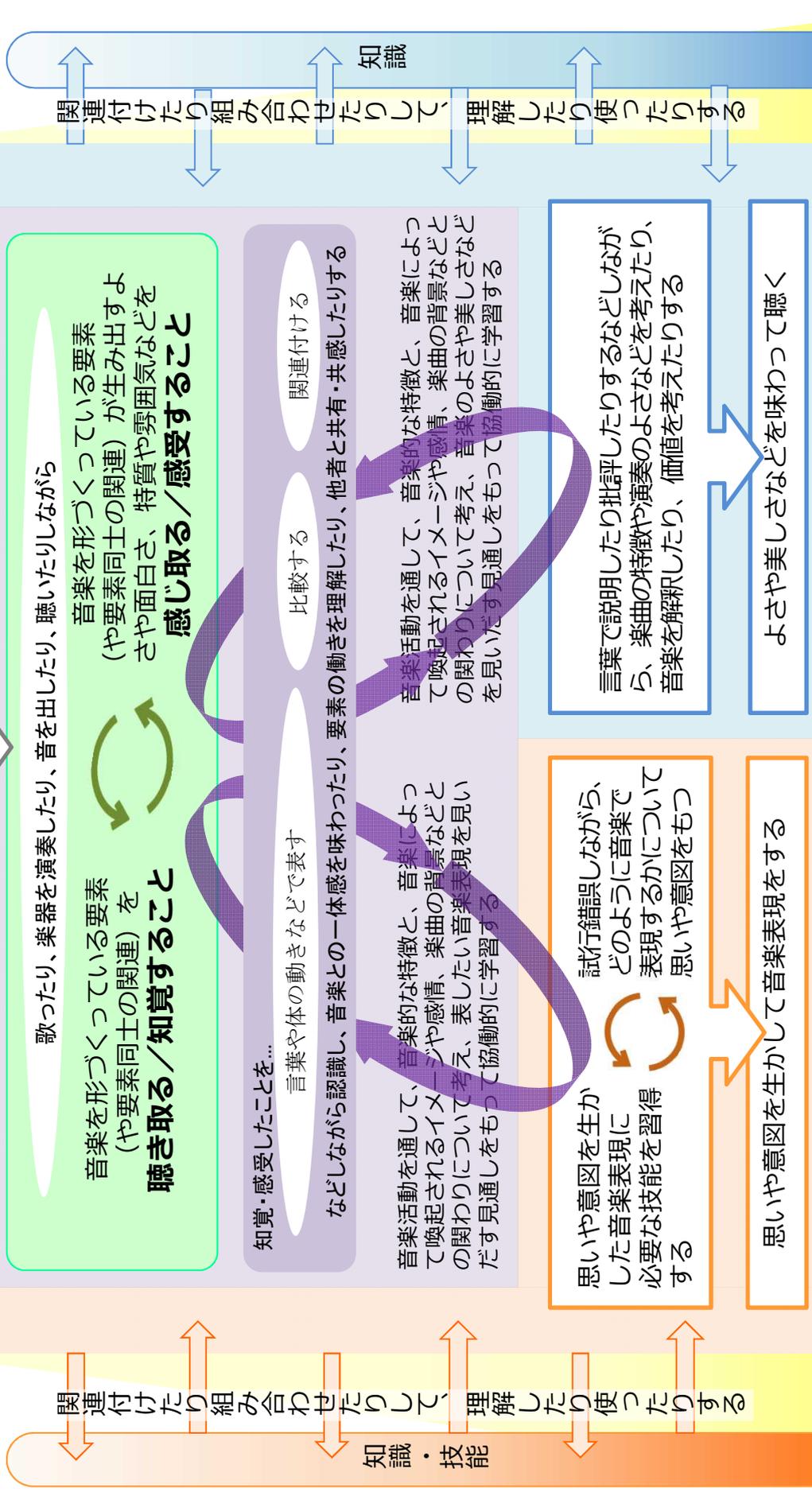
**表現領域の学習**

（主体的・創造的に音楽表現する）

**音や音楽との出会い**

**鑑賞領域の学習**

（主体的・創造的に鑑賞する）



学んでいること、学んだことの意味や価値、社会や生活の中の音や音楽の働きなどの自覚

豊かな情操の育成

音楽に対する感性

## 家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける検討事項

1. 家庭、技術・家庭科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・家庭、技術・家庭科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力と指導内容の系統性について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。